

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年2月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491500348		
法人名	株式会社 プロケア		
事業所名	グループホーム桜並木		
所在地	広島県福山市三吉町五丁目3番5号		
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3491500348&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3491500348&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年2月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・医療機関の協力が整っている。</li><li>・カンファレンス、ミーティングの頻度が多く、情報の共有、サービス向上に取り組んでいる。</li><li>・行事、レクリエーションを細かく設定して、利用者様によりよい刺激を与えられるよう工夫している。</li><li>・個々の希望や能力、身体状態に応じて支援している。</li><li>・ゆとりを持ち、笑顔で利用者様の一人一人のペースを大切に支援している。</li></ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

同じ建物に有料老人ホームが併設するホームで、合同の行事や利用者の行き来による行動範囲の広がりが見られ、職員間も連携が図られている。職員はコミュニケーションが良好で、話し合いの機会も多く、それらが事業所の運営体制や利用者へのサービスの向上に繋がっている。午後の時間に行われるレクリエーションには、料理、歌、スポーツ、クラフトなどがあり、職員の当番制で実行されている。毎週のミーティングで企画、反省を行い、利用者が参加しやすく、楽しめる形態を考え、参加の声かけや働きかけにも工夫している。訪問当日も利用者の参加率は良く、生き活きとし楽しそうな様子が伺えた。職員の動きにもあわただしさは感じられず、ゆったりと利用者と共に時間が流れ、またその様子は「さくらメール」で家族に毎月報告されている。医療面においても協力医療機関との連携が充分図られており、家族の安心に繋がっている。
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で理念を作り、その理念の下、サービスを提供している。	2年前に職員全員で話し合っって作成した理念を基に、毎年事業所目標を定めている。日々のサービスにおいて理念を意識した取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事に参加したり、地域ボランティアによる慰問等を行っている。	小学生の総合学習や中学生の職業体験実習、地域のボランティアの慰問など、また地域の「とんど」行事に利用者と共に参加するなど、地域とつながりながらの生活支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方向けに認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に開催し、意見交換の場として活用している。そこで出た要望等は可能なかぎり取り入れるようにしている。	2ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、地域包括支援センター職員、民生委員、入居者、家族、交替で職員も参加しているが、活動報告にとどまり、活発な意見交換にまで至っていない。参加者が固定化傾向にあるため、多くの家族に出席を願い、今年度1回は同時期に家族会を開催し、課題について検討し、質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう計画している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターとは連携を密にとりあっている。入所状況等の相談を行っている。	運営推進会議の出席や日頃のケアサービスの相談など地域包括支援センターとは、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束ゼロに向けて積極的に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践については、マニュアルを整備し、研修を定期的実施しており、職員は理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建物の構造上、利用者の安全性の確保を目的として、エレベーターは、ロックしているが、職員の見守りで自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会等を通じて職員へ防止の徹底を図っている。また、お互いに注意を払えるような体制作りをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を活用できるよう支援をし、実際に活用している方もいるが、職員が学ぶ機会には設けていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際に十分な話し合いを設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時等に話す機会を設けている。できる範囲で対応している。</p>	<p>運営推進会議において、入居者や家族が意見や要望を自由に話せるような雰囲気作りに努めたり、また家族の訪問時には職員が話を積極的に聞くようにしている。出された意見や要望はカンファレンスやミーティングで話し合いサービスの向上に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、カンファレンス等に参加し、意見を聞き対応、反映させている。	毎週開くユニットごとのミーティング、毎月2回の合同カンファレンスは話し易い雰囲気があり、職員は自由に意見や提案を行い、それらをサービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を年2回行い、各自で目標を設定させ、向上心を持って働ける様、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人事考課で個人の力量を把握し、研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ内研修や法人での定例会議等でお互いのサービス向上に向けた協力体制を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接の時等に今困っている事、将来の希望等を聞き出し、サービス開始に向けて準備し、ケアプランに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前、申込み、事前面接の段階で家族から、困っている事、不安な事等聞き、コミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何に困っているかを聞き、必要性に応じて、医療機関や居宅等に相談し、適切なサービスを利用できる様、検討する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者本位で対応できる様、職員には話をしている。家事等は一緒に行える様な環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会を促し、家族と過ごす時間を大切にしている。行事等の参加も呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊は原則自由に行える様になっている。面会があった場合は、居室へ案内しゆっくり話がしてもらえる様、支援している。	兄弟や馴染みの知人・友人の訪問時には、居心地よい環境作りに配慮したり、また馴染みの教会への外出を家族と共に支援するなど関係継続に努めている。入居後に新たにできた馴染みの関係、建物内にある併設の有料老人ホームの友達との交流も大切に支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや談話の際、気の合う人同士を近くにしたり、入居者同士の人間関係も重視している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後もその後の対応を含め、連絡をとったり、相談に乗ったりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に希望や意向を聞いている。ミーティング等で、どうすれば良いサービスが提供できるかを話し合っている。	家族の訪問時には、必ず話し合いの機会を作り、思いや意向を聞くようにしている。また日々のかかわりの中で、本人の言葉や表情から読み取ることにも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族や関係部署に生活歴等の伺うようにし、サービスの提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランにて実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族のニーズを引き出し、サービス担当者会議にて話し合い、ニーズに応える事ができる様なケアプランを作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を聞いて、担当者と話し合い、具体的なサービス内容を記述した介護計画を作成している。また毎週のミーティングで話し合った日々の気づきを追加するなど、現状に即した見直しも行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子等はケース記録への記入を行っている。ミーティングにて情報の共有、サービスの質の向上に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>出切る事、出来ない事を個別で把握し対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居者の力を発揮できる様な場面では、お願いしたり、その人らしい豊かな生活を提供している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医と連携を密にしている。いつでも快適な医療が受けられる様にしている。</p>	<p>毎週1回、協力医療機関から内科と歯科の訪問診療が行われ、入院も可能で、夜間や休日の連携もできている。本人や家族が希望するかかりつけ医への受診は家族が同行しているが、事業者との情報の共有は図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設施設の看護師に相談や対応をしてもらえる様な体制を整えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の地域連携室と連絡を密に取る事ができる為、タイムリーな情報交換ができる。また、主治医とも密に連絡を取り合える様にしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	関連事業所や医療機関等を視野に入れた話は適切なタイミングで行っている。	入居時に看取りへの対応はしない方針であることを説明し同意を得ている。重度化した場合は、協力医療機関と連携を図り、早い段階から話し合っ方針を共有している。状況をみながら、医療機関や施設を紹介したり、十分に説明を行い、支援している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルや勉強会を開催する等して実践力を身に付けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署から定期的に指導を受けている。地域との協働も話し合いをしている。	消防署の指導を受けて避難訓練、避難経路、避難場所の確認を行っている。併設の有料老人ホームの職員や地域の方との連携もあり、協力体制もできている。車椅子の利用者は、4人がかりで階段を下るす訓練も実際におこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格を把握し、日頃から声かけ等には指導を行っている。入浴、排泄等のプライバシーには細心の注意を払っている。	誇りやプライバシーの確保については、勉強会やカンファレンスで話し合い、職員は理解のもと、利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を尊重した声かけ、対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のコミュニケーションの中で、入居者本位を心掛けている為、希望や要望を聞き入れ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者本位を実践していると共に、カンファレンスを密に行っている為、個々のペースや状況に応じた対応が出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服や、おしゃれが出来る様、職員と一緒にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々のADLに合わせて準備や片付けを一緒にしている。	配食サービスを利用しているが、日々の食事の準備や片付けは、利用者一人ひとりの状況にあわせて、一緒にしている。また毎月1回はおやつづくりの料理教室の日を定めており、ほとんどの利用者が参加されて、個々の能力に応じた作業を行い、楽しいひと時となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	食事、水分量が確保出来る様、食事形態や、水分の摂り方を個別にて対応している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	個々に応じた口腔ケアを行い、状態に応じて歯科を利用している。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄パターンを知り、早めの声かけにてトイレ誘導を行い、快適に過ごせる様、支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、夜間はパットやオムツ使用の利用者も、昼間は誘導により、トイレで立位困難な利用者も、二人介助にてトイレでの排泄を支援している。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	内服での管理、又は便秘体操、食事等に工夫し、個別にて取り組んでいる。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	あらかじめ入浴日は設定してあるが、入居者の状態や希望に出来るだけそえる様支援している。	週3回の入浴を支援している。午前中を入浴時間にあてているが、希望のある場合は夜間の入浴や、また身体状況に応じて二人で介助するなど、個別の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	就寝時間は個別に対応している。 布団等も昔なじみの物を持ってきて もらう様、家族に伝えてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方された薬は医師と薬剤師よ り説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の生活歴、趣味、出来る事 を把握し、個別に対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	本人の希望に対し、家族の協力 を得て、外出支援をしてもらっ ている。外出行事も計画し、定 期的に外出している。	天候や本人の状態により、声か けをして、職員と共に階下の花 壇の水やりや、近隣の散歩に出 かけている。また地域の行事や 初詣、お花見などの外出を支 援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	金銭管理を行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の要望があれば、支援している。手紙についても要望があれば支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた空間作りを行っている。共同生活を営む事に支障のない様な共用空間を提供している。	2ユニットの隣接した広くゆったりしているリビングは、相互の自由な行き来が利点ともなっている。またテーブルやソファの配置で2つの空間があり、それぞれ好みの居場所できつろげる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者同士でゆったり過ごせる様な環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に家族に説明し、なるべく使い慣れた日用品を持ち込んでもらう様に伝えている。	各室ごとにフロアの模様や色が違っている居室には、洗面台が設置されている。家族と相談して、入居者の使い慣れた馴染みの物が持ちこまれているなど、居心地の良さへの配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な生活が送れる様、フロア内には邪魔な物を置かないように気を付けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム桜並木

作成日 平成24年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	参加メンバーが固定傾向にある	家族に気軽に足を運んでもらえる様にする	気軽に事業所に足を運んでもらえる様な企画を出し、少しずつ参加率を上げていく。	平成24年3月～平成25年1月まで
2	26	サービス担当者会議への家族の参加	介護計画作成時に家族の要望を聞き、計画作成に活かす。	現状本人と家族の意向は反映させているが、より濃く話し合う為に、サービス担当者会議に参加してもらい、コミュニケーションを密にとる。	平成24年3月～平成25年1月まで
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。